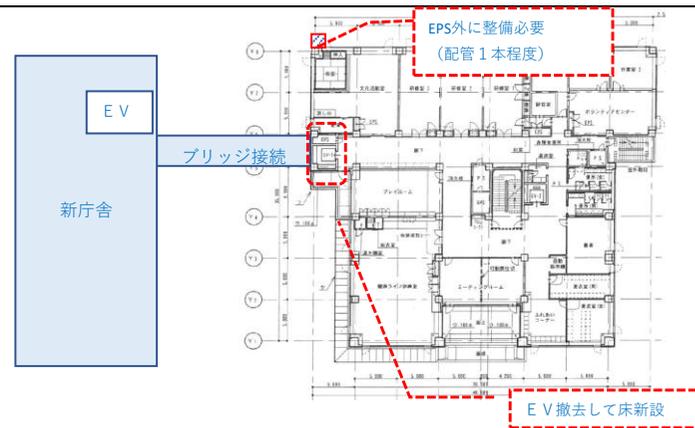


■新庁舎と別館の基本的な考え方の前提

- ・新庁舎と別館は往来が可能なように、2～4Fをブリッジで接続する。  
1Fは、メンテ車両など動線を鑑みて、接続なしとする。（歩行者の往来は可能）
- ・ブリッジ接続箇所は、別館の既存廊下動線を生かすべく、別館Y6～Y7通りの南側EVを撤去し通路を新設する。
- ・通路有効幅員は2.5m～3m未満程度であると想定される。  
(別館Y6～Y7通り柱スパンは4000mmである。)
- ・EV脇のEPSはブリッジ幅員確保のため撤去し外壁に這わせる  
(現EPS内は高圧ケーブルのみのため配管1本程度)
- ・別館のEVを一台撤去することを鑑み、新庁舎のブリッジ接続部近傍にEVを配置しスムーズな上下階移動に配慮する。



		A案：新庁舎と別館を水平に意識した部署配置をする	B案：新庁舎と別館を棟別に意識した部署配置をする
イメージ			
概要		新庁舎と別館を一体の庁舎と捉え、窓口・市民系部署、業務・事業系部署を双方それぞれに配置する。2～4Fをブリッジでつなぎ、2棟の往来を促進する。	新庁舎と別館を個別の庁舎と捉え、別館は専門性・独立性の高い部署を配置する。（例えば別館に事業系の部署を中心に配置する等）
窓口・市民	一般市民の駅や駐車場からのアプローチ	△ 別館窓口は、駅や駐車場から距離があるため、高齢者や障がい者を対象とする窓口の場合には、アプローチ動線への配慮が重要である。	△ 窓口が全て新庁舎側にあるため、駅や駐車場からのアプローチ水平距離はA案より短く済むが、移動がEV前提の運用となる。
	低層階への窓口系部署の配置のしやすさ	○ 1.2Fの配置可能エリアが増えるため、窓口系が低層階に配置しやすくなる。	△ 新庁舎の中間階まで、窓口や市民関連部署が配置される。
	窓口利用をする一般市民の分かりやすさ	△ 窓口系が新庁舎と別館に分かれるため、どちらの棟にあるのかが分かりにくい場合がある。（総合窓口で案内を徹底する）	○ 一般市民は新庁舎、業者関連は別館と、整理しやすい。
執務環境・職員	新庁舎と別館の一体利用	○ 関連する部署が新庁舎と別館に分散しているため、来庁者・職員とも往来が増加し、一体的な庁舎運営が可能である。	△ 棟別・目的別になっているため、来庁者・職員の往来はA案に比べると減少し、棟別の庁舎運営となる。
	ブリッジ接続の有効性	○ 来庁者や職員の様々な往来にブリッジが活用される。	△ 主に別館の事業系部署の職員が、新庁舎の会議室や共用部に行くために利用する程度で、ブリッジ接続の有効性が薄くなる。
	新庁舎執務空間の公平性	○ 業務系・事業系・窓口系が、均等に新庁舎と別館に分散される。新庁舎と別館の執務環境を公平に配分している。	△ 事業系のみが別館に配置されて、新庁舎に配置する他部署との偏りが生じてしまう。
職員	別館改修へのモチベーション・動機付け	○ 新庁舎と別館を一体的に整備するという発想から、別館を出来るだけ新庁舎の執務環境と同等にしていくための改修の必要性や意識が高まる。	△ 別館に配置する部署が限定的なため、新庁舎の執務環境レベルとは切り離れた発想での、部分的な改修となる懸念がある。